

田坂 自分が心の奥深くに、どのような「想念」を抱いているか。

まず、それを、見つめるべきです。

そして、その深層意識に、才能の開花を妨げる「否定的な想念」や「マイナスの想念」が無いかを見るべきです。

—— 具体的には、どのような想念が、才能の開花を妨げるのでしょうか？

田坂 「自己限定」の意識です。

すなわち、「自分には才能が無い」「自分にはできない」という、自分の能力と可能性を限定してしまう深層意識です。

その深層意識が、恐ろしいほどに、我々の才能の開花を妨げてしまいます。

従って、もし、我々が、「自分の才能を開花させたい」と願うならば、まず最初に、自分自身の心の奥深くを見つめ、自らに問うべきでしょう。

自分の中に「多様な才能」が眠っていることを、

自分は、心の奥深くで、本当に信じているか？

そのことを、問うべきでしょう。

なぜなら、表層意識では「自分の才能を開花させたい」と思っているとしても、深層意識の世界で「自分には才能が無い」「自分にはできない」と思っているならば、その深層の想念が才能を萎縮させ、抑圧してしまうため、それを開花させることはできないからです。

それは、あたかも、右足で自動車のアクセルを踏みながら、左足でブレーキを踏んでいることと同じです。

—— 笑えない話ですね・・・。

田坂 そうですね。実際、表層意識でアクセルを踏みながら、深層意識ではブレーキを踏んでいる人が多いのです。

例えば、周りの人に、「明日の試合は勝つぞ」と語っているながら、心の奥深くでは、「明日も負けるんじゃないか・・・」と思っていたり、表層意識では、「自分ならできる」と思いながら、深層意識では、「自分にはできない・・・」と思っていたり・・・、アクセルを踏みながら、ブレーキを踏んでいる例は、決して少なくないのです。

——なるほど、問題は、「深層意識」に、どういう想念を抱いているかですね・・・。
ただ、そのことは、人間の「潜在意識」について語っている本では、しばしば指摘されていることですよ？

そして、それらの本では、その解決方法として、「自分には才能が有る」や「自分にはできる」という想念を、意識的に、繰り返し心に刻むことによつて、潜在意識を「肯定的な想念」や「プラスの想念」に変えていくことを教えていますよね？

「潜在意識」を変えられない真の理由

田坂 ええ、たしかに、「潜在意識」について語っている本では、しばしば、そういう方法が語られています。端的に言えば、「意識的に『肯定的な想念』や『プラスの想念』を強く念じると、その想念が、潜在意識にまで浸透していく」という考えです。

しかし、実は、心の世界は、それほど単純ではないのです。

——単純ではない・・・？ なぜでしょうか？

田坂 人間の潜在意識や深層意識の世界は、「天邪鬼（あまのじゃく）」だからです。

——「天邪鬼」ですか・・・？

田坂 そうです。潜在意識や深層意識は、しばしば、表層意識が思っていることと、逆のことを思う傾向があるからです。

——それは、なぜ・・・？

田坂 分かりやすく説明しましょう。人間の「心の世界」は、比喩的に言えば、あたかも「電気」のような性質を持っているのです。

—— 「電気」のような性質ですか……？

田坂 そうです。御存じのように、「電気」には、「プラスの電荷」と「マイナスの電荷」がありますが、この二つは、同時に発生するのです。従って、「プラスの電荷」だけが発生することはないのです。

例えば、小中学校の理科でも習ったと思いますが、ガラスの棒を絹の布でこすると、プラスの電荷が発生するという実験があります。しかし、正確に言えば、あの実験で、プラスの電荷だけが生まれてきているわけではないのです。同時に、絹の布の側に、マイナスの電荷が、同じ量だけ生まれてきているのですね。

—— なるほど……。しかし、それが、なぜ、「心の世界」と関係するのでしょうか？

田坂 「心の世界」も「電気の世界」と同じで、「プラスの想念」だけが発生するのではなく、同時に「マイナスの想念」も発生してしまうのですね。

特に、表層意識のところに、無理やり「プラスの想念」を引き出すと、深層意識に「マイナスの想念」が生まれてしまいます。

例えば、大切な試合を前に、表層意識の世界で、「明日の試合は勝つぞ！」という思い、すなわち、「プラスの想念」を無理やり引き出すと、むしろ逆に、深層意識の世界では、「明日も負けるんじゃないか……」という不安、すなわち、「マイナスの想念」が溜まっていくのですね。

別な例で言えば、上司が部下に対して、「この目標は達成できるな！ 絶対に達成できるな！」と迫ると、部下は、「できます！ 絶対にできます！」と、表層意識は「プラスの想念」で満たされるのですが、その深層意識は、「できないのでは……」「できなかつたら、どうしよう……」という、不安の想念、「マイナスの想念」が溜まっていくのです。

—— たしかに、自分の心を見ても、そうした傾向はありますね……（苦笑）。

田坂 そうです。表層意識では「できる」と思っている、深層意識は、そう思っていない。表層意識が「できる」と思えば思うほど、逆に、深層意識は、「できない」と思っていく。そして、その深層意識が、我々の能力の発揮や、才能の開花を抑えてしまうのです……。

——なるほど……、人間の「心の世界」は、たしかに「天邪鬼」の世界であり、怖いですね……。

田坂 そうですね。そして、それが、世の中に「奇妙な現象」が生まれる理由なのです。

——「奇妙な現象」ですか……？

田坂 昔から、世の中の書店には、「潜在意識の活用による成功法」を語る本が溢れています。そして、どの本も、「『自分はできる！』と心に刻め！」、「『自分は成功する！』と強く念じよ」という類のことが書いてあります。

しかし、それにもかかわらず、これらの本を読んで、「自分はできる！」と心に刻み、「自分は成功する！」と強く念じることによって、潜在意識を「プラスの想念」に変え、実際に「成功」を手にする人が、あまりいない……。

その奇妙な現象は、いま述べた「潜在意識の世界」の「天邪鬼な性質」から生まれてくるのです。

——それが、「潜在意識の活用による成功法」の難しさであり、そうした本を読んでも、なかなか成功しない理由なのです……。

田坂 そうです。「潜在意識」や「無意識」「深層意識」については、昔から、精神分析学者のジークムント・フロイトや分析心理学者のカール・グスタフ・ユングを始め、多くの学者によって研究されているのですが、実は、その「潜在意識」や「無意識」「深層意識」に働きかける日常的に有効な方法は、あまり開発されていないのです。